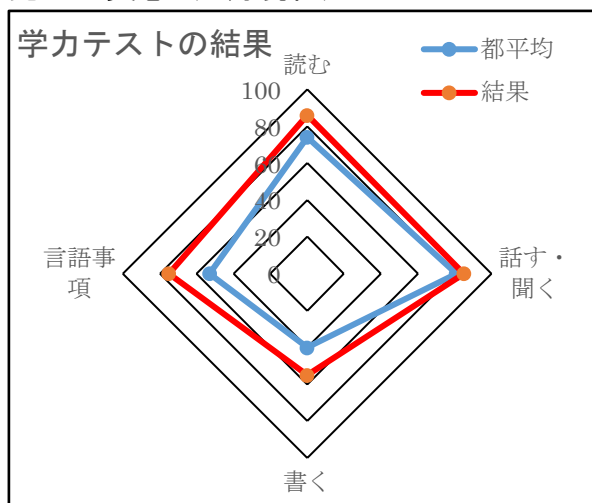


## 第5学年 国語科

児童の実態（7月現在）



### <実態の分析>

- ・全観点で東京都の平均を上回っている。
- ・「書く」については、東京の平均と同様に55%と数値は低くなっている。
- ・学力調査、日々の観察から、自分の考えを文章で表現する力に課題がある。書く活動に重点を置き、表現力の向上を図る手だてが必要である。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 身に付けたい力と言語活動のやり方を単元の初めに示して見通しをもたせ、毎時間のめあてを提示している。	[課題設定] 今後も継続して指導していく。	[補充的な学習指導] ・書く力が全体的に低いので、単元のゴールの姿を示し、構成や表現に気を付けた書き方を指導する。 ・週末にミニ作文の課題を設定し、自分の感じたことやあった出来事を様々な表現の仕方を書かせ、表現する力を高めるよう指導する。
[学習形態] 全体で話し合うと限られた児童の発言だけで終わってしまうことがある。	[学習形態の工夫] 小グループ活動の機会を増やし、自信をもたせてから全体での話し合いにする。	[発展的な学習指導] ・読み取りに優れた力をもつ児童には、同じ作者の違う作品、同じジャンルで違う作者の作品などを用意する。作品を読み比べる中で、筆者の世界観やジャンルの中での表現の違いなどに気付かせていく。
[発問・指示・板書計画] 児童の意見を取り入れた構造的な板書をできるようにしていきたい。	[発問・指示・板書の工夫] 板書の際に色を変えて表示したり、行の使い方の工夫を分かりやすく示したりして、児童のノート指導にも生かす。	
[教材の活用] 教科書を電子黒板で大きく提示することで興味・関心を惹いたり、映像教材を見せたりすることで理解の定着を図っている。	[教材の工夫] 子供たちが活動に取り組みたくなるような教材と言語活動を設定し、主体的に学習できるようにしていく。	
[評価の方法] ノート、発表、作品、テスト等	[評価の工夫] 作品やノート等を適宜記録していく。友達と相互評価するような場面を作る。	

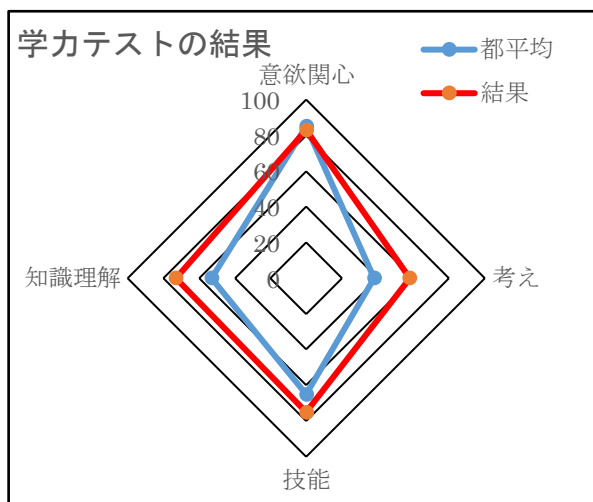
### <評価・修正>

[評価] 小グループでの話し合い活動の機会を増やしたことで、友達の意見を聞く中で課題に対して自分の考えを広げられた児童もいた反面、話し合いに目的意識をもてずにいたり、自分の考えがもてずに話し合いに臨む児童もいた。

[修正] 「～という活動をする、そのために～について話し合う」というように、活動の目的と方法を事前に伝えて見通しをもたせる。自分の考えがもてない児童には、個別に声かけをして支援していく。

# 第5学年 算数科

児童の実態（7月現在）



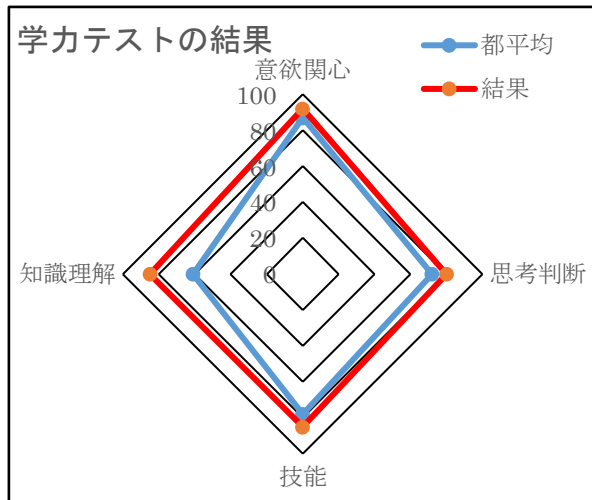
**<実態の分析>**

- ・「意欲関心」については都平均を若干下回っているが、その他観点についてはいずれも都平均を上回っている。
- ・学力調査、日々の観察から、技能の確実な定着に課題がある。課題解決後に反復練習や適応問題に取り組むなど、技能の定着を図るための手だてが必要である。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p><b>[課題設定]</b> 児童にとって、意欲や関心を起こすような課題設定を工夫していきたい。</p>	<p><b>[指導]</b> 日常に関連した問題設定をすることで、児童が必要感をもちながら学習に取り組むことができるようにしていく。</p>	<p><b>[補充的な学習指導]</b> 個別で指導する時間を確保する。</p>
<p><b>[学習形態]</b> 教師との対話だけでなく、児童間での対話を通して課題を解決できるようにしていきたい。</p>	<p><b>[学習形態の工夫]</b> ・しっかりコースでは自力解決後に比較検討し、考えを高められるようにする。 ・じっくりコースでは考えのよさを見付け合い、進んで発表できるようにする。</p>	<p>ベーシックドリルを活用し、学力調査で分かった課題の改善を図る。</p>
<p><b>[発問・指示・板書計画]</b> どのような方法で自分の考えをノートに書いたり発表したりして表現することに難しさを感じている場合が多い。</p>	<p><b>[発問・指示・板書の工夫]</b> 自分の考えをどのように表現するとよいか端的に指示し、児童が考える時間を増やしていく。</p>	<p><b>[発展的な学習指導]</b> 数学的な考え方を伸ばしていけるような質の高い問題を選んで、取り組ませていく。</p>
<p><b>[教材の活用]</b> デジタル教材や具体物を使用する中で、児童の理解を深められるようにしたい。</p>	<p><b>[教材の工夫]</b> 操作が必要なら具体物、視覚的に理解するならデジタル教材と、必要に応じて使い分けていく。</p>	<p>日常の中で算数の考え方を使っている事例に準じた問題やゲームなども取り入れていく。</p>
<p><b>[評価の方法]</b> ノート、テスト、発言、ミニボード等</p>	<p><b>[評価の工夫]</b> 作品やノート等を適宜記録していく。</p>	
<p><b>&lt;評価・修正&gt;</b></p>		
<p><b>[評価]</b> 学習内容によって、具体物とデジタル教材を使い分けていくことで実感を伴った理解につながった。また、日常生活と算数を関連付けて問題を出す中で、意欲的に問題に取り組むことができた。</p>		
<p><b>[修正]</b> 習熟度別のコースの中でも学習の進度に個人差が生まれてしまった。多様な解き方を検討して考えを広げるのは重要だが基礎的基本的な内容の定着も大切なので、集団で問題検討する時間と、適応問題に取り組む時間のバランスを取るようにする。</p>		

## 第5学年 社会科

### 児童の実態（7月現在）



#### <実態の分析>

- ・全観点で東京都の平均を上回っている。
- ・「知識・理解」については全体的に数値が高く、既習事項が定着していることが分かった。
- ・学力調査、日々の観察から、学習課題に対して自分の考えをまとめる点に課題がある。調べた内容を比較・関連・総合させて、自分の考えを導き出せるよう指導していきたい。

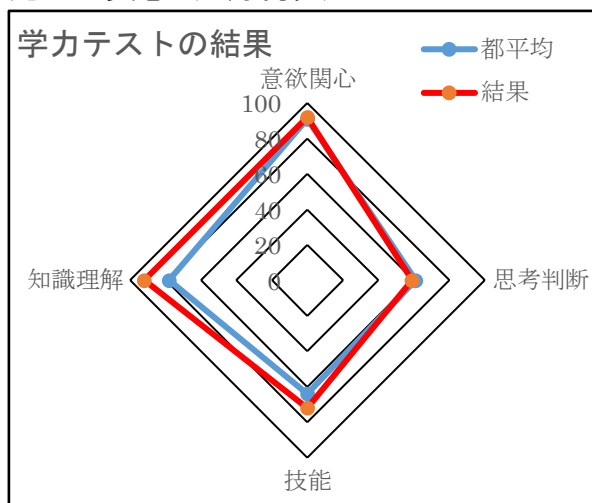
<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p><b>[課題設定]</b> 児童の問題意識に沿って学習問題を設定してきたが、まだ児童自身で問題設定をするには至っていない。</p>	<p><b>[課題設定]</b> 学習問題・学習計画の作り方を教え、自分たちの問題意識を基に課題解決ができるように指導していく。</p>	<p><b>[補充的な学習指導]</b> 資料の読み取りが苦手な児童には教師から読み取りの視点を示し、自分の考えをノートに記入したら価値付けしていく。</p>
<p><b>[学習形態]</b> 調べ学習においては技能差が目立ち、友達の意見から学んでいる児童もまだ少ない。</p>	<p><b>[学習形態の工夫]</b> 個別の調べ学習で技能を高めていくと共に、ペアや班で調べる学習も取り入れ、友達の読み取りの視点や方法を学べるよう支援する。</p>	<p><b>[発展的な学習指導]</b> 調べたことをまとめる段階では、パンフレットや関係図などの表現方法を指導したり、これからの産業について自分の考えを発表させる場などを設定したりする。これらの活動に取り組む中で、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p>
<p><b>[発問・指示・板書計画]</b> 一問一答の発問が多く学びが広がらないことがあった。また、板書量が多く苦勞する児童も見られた。</p>	<p><b>[発問・指示・板書の工夫]</b> 答えが多様に出るような発問を工夫する。板書の内容は精選し、知識・理解の徹底を図る。</p>	<p><b>[発展的な学習指導]</b> 調べたことをまとめる段階では、パンフレットや関係図などの表現方法を指導したり、これからの産業について自分の考えを発表させる場などを設定したりする。これらの活動に取り組む中で、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p>
<p><b>[教材の活用]</b> 複数の資料を与えると読み取る内容が分からなくなったり、学習課題に対して必要な資料を選択できない児童もいた。</p>	<p><b>[教材の工夫]</b> 学習課題に正対して資料を読み取れるように視点を示す。</p>	<p><b>[発展的な学習指導]</b> 調べたことをまとめる段階では、パンフレットや関係図などの表現方法を指導したり、これからの産業について自分の考えを発表させる場などを設定したりする。これらの活動に取り組む中で、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p>
<p><b>[評価の方法]</b> ノート、ワークシート、テスト、発言等</p>	<p><b>[評価の工夫]</b> 作品やノート等を適宜記録していく。</p>	<p><b>[発展的な学習指導]</b> 調べたことをまとめる段階では、パンフレットや関係図などの表現方法を指導したり、これからの産業について自分の考えを発表させる場などを設定したりする。これらの活動に取り組む中で、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p>

#### <評価・修正>

- [評価]** 個人、ペアなどで調べることで読み取りの技能は高まった。単元の中で調べたことを比較、関連、総合して学習問題のまとめを的確に考えることができる児童が増えてきた。
- [修正]** 学習問題・学習計画の作り方を定着させることがまだできていない。自分たちの問題意識を基に課題解決ができるようにするために、子供たちが疑問や興味をもてるような教材開発を今後も続けていく。

## 第5学年 理科

### 児童の実態（7月現在）



#### <実態の分析>

- ・「思考判断」については都平均を若干下回っているが、その他観点についてはいずれも都平均を上回っている。
- ・学力調査、日々の観察から、実験や観察した結果の考察やまとめ方に課題がある。調べたことからどのようなことが結論としていえるか、自分の考えをまとめられるように指導する必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 実験の結果を知っている児童が多く、意欲的に課題に取り組ませることが難しい。	[指導] 児童が自主的に課題設定をできるように、日常生活に根差した資料を準備したり、発問を工夫したりしていく。	[補充的な学習指導] 実験・観察を行った後、全体でポイントとなる言葉や考え方については確認し、知識の定着を図る。
[学習形態] 個人での活動になる場合が多く、集団で課題解決をする雰囲気が出ていない。	[学習形態の工夫] 二人組や班での実験・観察を取り入れ、役割分担を明確にして活動を行えるように配慮する。	[発展的な学習指導] 類似したほかの実験や観察を教科書やデジタル教材等で紹介し、知識・理解をさらに広げたり、深めたりしていけるようにしていく。
[発問・指示・板書計画] 理科室での実験器具の操作について、説明を十分に理解できていない場合がある。	[発問・指示・板書の工夫] 実験の手順を板書し、操作時のポイントについては実演したり色を変えて板書したりして理解の徹底を図る。	
[教材の活用] 「植物の発芽」「植物の成長」「めだかのたんじょう」等の単元では、生き物を扱うため授業のタイミングと、成長の過程を合わせる事が難しかった。	[教材の工夫] 観察が難しい場合は、必要に応じて電子黒板の映像を使って指導をしていく。	
[評価の方法] ノート、テスト、ワークシート、発言等	[評価の工夫] 作品やノート等を適宜記録していく。	

#### <評価・修正>

- [評価] 課題について、予想してから実験することで興味を引き出すことができた。デジタル教科書や映像資料も活用したことで、児童は視覚的にも理解することができていた。
- [修正] 塾で学んでいる児童の多くは実験や事象の結論を知っているため、単元導入時に意欲が低かった。児童の疑問から実験に繋がるように指導すると児童が必要感をもって実験に取り組めると感じたため、単元導入時に児童に問題意識をもたせられるような教材財提示をしていく。

第5学年 体育科  
児童の実態（7月現在）

＜実態の分析＞

観点別結果の分析

- （意欲・関心）全体的に意欲は高いが、熱心に取り組むあまり勝敗を受け入れられない児童もいる。
- （思考・判断）動きのポイントを理解した後、どのように体を動かすか考えながら運動することに課題がある。
- （技能）個人差が大きい。特に走・跳の運動や器械運動においては差が大きい。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
[課題設定] 技能面で差が大きいため、全体のめあてが自己の課題に合わない場合がある。	[指導] 一人一人が自分に合うめあてを選んだり決めたりできるようにしていく。	[補充的な学習指導] 運動の日常化を図れるように、休み時間にできる運動を紹介する。運動に苦手意識がある児童は、個別に指導する時間を設けるなどして、支援する。
[学習形態] 動きのポイントや作戦を、どのように伝え合ったり、教え合ったりすればいいかわからないなどの様子がある。	[学習形態の工夫] 領域に応じてペア・トリオでの学び合いやチームタイムを取り入れて教え合えるようにする。よい関わりをしていたら全体で取り上げる。	
[発問・指示・板書計画] 自分またはチームの良さや課題に気付いていない場合が多い。	[発問・指示・板書の工夫] 運動のポイントを明確に示し、個人・チームが、良さや課題に気付くことができるように声掛けをしていく。	[発展的な学習指導] 安全性を十分に考慮したうえで難易度の高い技や動きを紹介し、無理のない範囲で取り組ませる。
[教材の活用] 学習カードや学習資料を効果的に活用できていない場合がある。	[教材の工夫] 児童必要感のある学習資料を提示したり、友達との学び合いや課題に対する自己の振り返りのために学習カードを活用させたりしていく。	
[評価の方法] 行動観察 学習カード	[評価の工夫] 観察及び学習カードを用いた評価を継続していく。	

＜評価・修正＞

- [評価] 跳び箱運動やマット運動などの器械運動では、技のポイントについて友達同士で伝え合う活動を取り入れたことでポイントを意識しながら運動する児童が増えてきた。一方でソフトバレーボールなどのゲーム領域では、チームでの話し合いがゲームに結びついていない場合が多く見られた。
- [修正] ゲーム領域ではチームタイムを取り入れ、自分のチームのメンバーの能力に合わせて役割を考えたり、相手チームに合わせて作戦を立てたりするなど、作戦を立てる視点を教師から示すことで課題解決の一助にしていく。